



「春の彼岸会のご案内」

日	10時〜	14時〜	19時〜
22日 (日)	速夜 仏説 観無量寿經 法話一席		

法話 西光寺若院 内嶋淳浩

今年から春の彼岸会ひがんえの法要を勤めさせていただくことにいたしました。お昼の一座だけですが、どうぞお誘い合わせの上お参りください。春分の日には真東から太陽が昇って真西に沈みます。西方にあるというお浄土じょうどを思い、阿弥陀如来あみだにょらいからたまわるお慈悲をよるこばせていただく日としたいものです。日曜日ですので、日頃お寺にお参りする機会のない方もぜひお参りください。

「羨〜モウと暮らした50日」

早いものでもう3月ですが、今年は五年であります。私（若院）が、高校で演劇部の顧問をしていたのはご存知の方も多いと思

春の彼岸会にお参りください。
3月22日（日）午後2時より

ますが、平成19年度の高校演劇全国大会で最優秀に選ばれたのは、岐阜農林高校が上演した、『羨〜モウと暮らした50日』というお芝居でした。このお話は、農林高校での実話を元にしています。みなさんは、乳牛おすに雄おすが生まれたらどうなるか知っていますか？なんと生後たった50日でお肉にされてしまうのです。私はこのお芝居を観るまで乳牛おすの雄おすのことなど考えたこともありませんでした。

主人公の山田ほたるは、自ら望まずに農林高校に入学した女子生徒。毎日嫌だ嫌だと思いつながら通学しています。他校の生徒から臭いと言われながら豚や牛の糞の始末や搾乳さくにゅうをします。遅刻して先生の話をちゃんと聞かずに、乳房炎さくにゅうになった牛から搾乳さくにゅうしてしまつて大騒ぎになるなど、クラスでも問題の生徒でした。山田の同級生には川島という生徒がいました。彼女は家が牧場を経営している酪農家ちやくのうかでした。自ら望んで農林高校に入学した川島は、山田とは正反対で明るく一生懸命に勉強しています。でも、実際は牧場の経営もうまくいかず、頼りのお父さんは体を壊してしまい、苦しい苦しい毎日を送っていたのです。そんな川島は山田とぶ

つかつてしまったときにたまらずこう言うのです。

「私は今まで必死で頑張ってきた。でも、どうにもならないことだつてあるんだよ！」

さて、そんな山田もついに3年生になりました。3年生では、一人が一头の牛を誕生の準備から担当するのだそうです。山田も、自分が担当する牛の出産に立ち会いました。ところが、やつと生まれた仔牛は雄だったのです。そして、足が3本しかないという障害を持つていました（これも実話です）。山田は新しい生命いのちの誕生に感動しますが、先生に「これ雌めすだよね？」と聞きますが、先生は「いや、雄おすだ。」と答えます。

「雄おすだつたらどうなるの？」

「生後50日で食肉業者に引き取られるんだ」
山田はショックを受けますが、そんな仔牛に『モウ』という名前をつけて献身的に世話をしようになります。モウが生まれてからの山田は、これまでの何事にも嫌々取り組む生徒ではなくなつてきました。しかし、50日なんてあつという間に過ぎてしまいました。いつしか『その日』が近づいてきました。このままではモウを助けることができな

いと考えた山田は、モウを家につれて帰って、両親に飼つてくれるように懇願します。

「私がモウの親がわりになる!」

しかし、当然許されるはずありません。思余つた山田は「あなたは野良牛になりなさい」とモウを野に放つてしまいます。モウがいなくなつたことが学校でバレて大騒ぎになりましたが、山田のクラス全員でモウを探してどうにか見つけることができました。

モウが食肉業者に引き取られる日、山田は学校に来ません。業者さんは「この牛、3本足なのに素直に育つてるね。愛情込めて育てられたんだね」と感心します。そして、嫌がることもなく静かにトラックで運ばれていきました。山田は遠くからモウの運ばれていくトラックを見て、

「モooooooooooooooーウ!」

と声の続く限り呼んでいました。

お芝居はこんな内容でした。私たちは普段なにげなく牛肉や豚肉をはじめ、生き物の生命をいただいて暮らしています。牛などは生後2年あまりでお肉にされています。肉になるようです。朝、北陸自動車道を金沢に向けて走っていると、ときどき牛を積んだトラックを追い越すことがあります。あの牛たちはいまからお肉にされるために運ば

れているのですね。なんともいえない気持ちで彼らを見つめてしまうことがあります。

でも、私たち生き物は他の生命をいただくには生きていけません。せめていただいた生命に感謝していただきたいものです。「いただきます」「ごちそうさま」はいただいた生命にたいする懺悔と感謝です。私たちは牛や豚や鶏はもちろん、ししゃもの雄や賞味期限切れなど、人間の身勝手に食べられずに捨てられるたくさんのお肉や、医薬品や化粧品の開発で殺されてゆく生命が多くあることに気づいているでしょうか。

また、お芝居の中の川島のセリフ、前述の「**どうにもならないことだつてあるんだよ!**」もみなさん同じ思いなのではないでしょうか。私たちの生活は、一生懸命に取り組んだら必ずなんとかなるといふものではない

ありません。どうにもならないことだつてあるのです。でも、それを嘆いてみても誰かを恨んでみても、うまくいつている(と思われ)人を羨んでみてもどうにもなりません。仏説無量寿経というお経の中に「**有田憂 田 有宅憂宅**」という言葉があります。田あれば田に憂へ、宅あれば宅に憂ふ。どんなに恵まれているように見える人も、心には悩みや心配を抱えています。それはみな煩惱です。このお芝居の題名の「**騷**」は、変な題だな

なくなることはありません。

あと思っていたのですが、見終わった後に納得できました。山田がモウを育てたと思つていたつもりだったけど、実は**山田がモウに育てられていた**のです。モウと出遇つてからの山田は人間的にも大きく成長しました。私たちが普段お寺で、お仏壇で如来さまに合掌をするとき、私が願うずっとずっと前から、煩惱まみれの私を一人子のように救わずにはおかないと願ひ続けてくださっているのが阿弥陀如来という仏さま、南無阿弥陀仏です。山田がモウの親になると言つても、私たちのできることには限りがあります。でも、如来さまは自在です。いつでもどこでも、どんなときにも慈悲にめぐまれていることを共々によろこばせていただきますように。

「吉崎別院修繕懇志のお願い」

宗祖親鸞聖人750回大遠忌のお待ち受け法要を機縁として、かねてより老朽化が進んでいる吉崎別院の本堂周辺、正面石段、鐘樓堂の屋根と階段などの補修をさせていただくことになりました。つきましては門信徒一軒につき二千円の懇志の依頼が来ております。出費多端の折りではございますが、何とぞよろしくお願いいたします。

それではみなさん、彼岸会でお会いしましょう。

合掌